

放置した鉄さくに車激突。あわや大惨事に— 共産党 JRへ早期撤去を要請



1月5日の朝7時30分頃、踏切拡幅工事で撤去されるはずの鉄さくに、日夏から国道に向かって軌道敷内に入った車輛が激突。車は軌道敷内で立ち往生。近隣市民がとつさの判断で、「そのボタン！」と叫んで緊急停止ボタンを押すよう指示したため、近づいてきた電車は約20m手前で緊急停止。一歩違えば大惨事と

車が鉄さくに激突。

なるところでした。

鉄さく1m以上せり出し、朝陽でみえす

鉄さくは、歩道と車道を分離するラインから1m以上も車道側につき出ており、しかも出勤時間帯は朝陽でサンバイザーを下げても殆ど効果がない危険な状況となるのがわかりました。

早速、鉄さく撤去

などを要請

この日河瀬駅で宣伝していた西澤議員が事故を目標。山内善男党彦根市対策委員長、山田多津子彦根市議とともに早速、JR彦根駅長に事故の家族とともに要請。

彦根駅での要請では、「一日も早く、危険な鉄さくを撤去すべきで、放置してきた責任はJRにあり、電車遅延の補償を請求するなどいらない」と要請。

また、撤去するまでの間、朝のラッシュ時だけでも警備員を置くことや、鉄さくの位置を見やすくするために反射板の取り付けなども必要と申し入れ、彦根駅は上部組織に伝えると約束。

せまくて踏切り拡幅完成まじかあぶない

近隣住民や通行者が長年「狭くて危険」と指摘してきたJR河瀬駅北側の、いわゆる日夏踏切道の拡幅工事が3月末の完成といえます。日本共産党は踏切を通る県道の拡幅工事に合わせて拡幅するように再三にわたって要請してきたものです。

この工事途上であわや大惨事という事態が5日に発生。日本共産党はその日のうちにJRと県に安全対策などを求め要請しました。

日夏踏切り道拡幅工事について

【1月5日、JRへの要請文】

日頃の安全、安心な鉄道業務についてのご努力に感謝申し上げます。

(中略)

従来より当該場所の拡幅工事については、わたしたちも度々お願いしてきましたが、幸いこの願いにこたえていただき工事がほぼ実現することとなったことについて感謝申し上げます。

但し、当該工事につきまして県道および軌道敷内の工事がほぼ完了しているにもかかわらず、JRがもともと設置されている歩道部分のガード(フェンス)が撤去されていないため非常に使いづらい現状となっています。一刻も早くこのガード(フェンス)を撤去して拡幅の恩恵が、利用されるみなさんの実感となるようお願いするものです。市民のみなさんの自転車通行や歩行者の利用など、安全上からも特段に急いでお願い致します。

県・道路課にも要請

県の道路課にも要請。JRに対して、「速やかに鉄さくの撤去工事を行うよう事業主体として責任をもって指示すべき」と要請。

県は「JRに対して、要請する」と応え、12日、再確認したところ、県は「反射板は取り付けるよう材料も指示した。但し、警備員については、さらにJRに伝える」と回答しました。

列車遅延の補償請求はしない

「相場は、10分、電車を止めれば50万の補償金が必要」と聞いた家族は途方に暮れていましたが、この要請前に保険会社から、JRが「補償は要求しない」と知らせがあり家族は一安心となりました。

「拡幅は無理」をひっくり返した力

共産党は、4年前の県議選・彦根市議選の際には、「いつまで放置しておくのですか」と民報を発行し世論に訴えました。そのとき、「国鉄・JRの事情をよく知っている」という男性(実名)から「昭和三十三側踏切が拡幅された事情で河瀬駅北側の日夏踏切は拡幅されないことになっている。共産党さんがいくら頑張っても拡幅は無理や」と冷やかな電話が党の事務所へありました。しかし、利用者の切実な願いと私達の働きかけが実り、今年3月末には拡幅工事が完成するといえます。

ところが、拡幅前の鉄さくが残されたまま、非常に危険な状態となっていたものです。

みなさんの声・願いを

お寄せください

【16日確認したところ、その鉄さくは撤去されていました。】